

新規恒久5施設の経営改善に向けた専門委員会（第二回） 議事要旨

- 1 **開催日時** 令和5年2月22日（水曜日）9時から11時まで
- 2 **開催場所** オンライン開催（東京都庁第一本庁舎 19階会議室）
- 3 **出席委員** 守泉誠委員、原田宗彦委員、上代圭子委員、笹井裕子委員、
村木美貴委員、柏原弘幸委員（6名全員出席）
※ 第一回の互選により、委員長は原田委員

4 会議内容の概要

（1）開会挨拶・趣旨説明

（2）議事

【委員の主な意見】

①各施設の収入確保策について

○夢の島公園アーチェリー場

- ・アーチェリーの初心者教室が都内では不足しているので、回数を増やすと効果的
- ・パラアーチェリーの大会を積極的誘致
- ・広大な芝生広場、周辺の公園や施設、夜には星が見えるといった環境に鑑みれば、アーチェリー以外の競技利用や、様々なイベント開催地としてのポテンシャルあり
- ・民間の柔軟な発想を用いた、テーブルや椅子を置く等の人が集まる仕組みづくり
- ・周辺の公園や施設の管理者と連携した取組を推進

○海の森水上競技場

- ・広大な陸域のほか、ラウンジや会議室、観覧席など、大きなポテンシャルあり
- ・定期的な花火大会やアニメの聖地化など、知名度を上げるための工夫が必要
- ・イベント主催者や旅行会社と協力し、各種フェスやライブ、子供向けのレジャー、MICE、水辺のグランピングなどを誘致
- ・水面の活用の拡大（ヨットや水上バイク、船舶免許教室など）
- ・ドライブインシアターなど、車で参加するイベント
- ・競技利用の拡大には限界があるため、レジャーや教育など様々な要素を積極的に取り入れつつ、施設のアイデンティティの再構築を考えるべき

○大井ホッケー競技場

- ・様々なスポーツ利用のほか、地域連携も進められており、良い形のレガシーとして

取組を推進

- ・ホッケーやラクロスなどのスクールや、学校の部活動利用など
- ・近隣の施設や団地等、人が来やすい環境にあるため、他のイベント等との連携促進

○カヌー・スラロームセンター

- ・大都市の中でのカヌー・スラローム施設は世界的に見ても大きなアドバンテージ、海外選手の合宿やインバウンドを積極的に誘致
- ・夜間照明を活用し、ナイトラフティングなどの事業メニューを具体化
- ・アクティビティ後の飲食など、オプションメニューの充実
- ・子どもや学生を対象とした様々なアクティビティ（授業でのカヌー教室の取り入れ）
- ・ユニークメニューとしても特徴的な施設
- ・隣接する公園、水族園、ホテル等との連携強化

○東京アクアティクスセンター

- ・都内にはプールが無い学校も多いので、学校の授業や部活の受け入れ
- ・アーティスティックスイミングショーなど、プールを活用したイベント等
- ・夢の島公園アーチェリー場をはじめ、周辺施設との連携強化
- ・地域住民とも協力したスポーツを通じたまちづくり

②各施設における支出の精査について

- ・業務の品質管理の観点から、実績データに基づき光熱水費や委託費を検証
- ・人件費については、人員配置の見直しにより精査
- ・目先の経費削減で事業が縮小しては本末転倒、スポーツ施設の社会的メリットを発信
- ・効率的な運営や戦略的な事業展開の観点から、将来的には、複数施設の一体管理や、現行5年としている指定管理期間の長期化も検討